

平成30年度 研究成果報告会

日時

2019年5月8日水
午後1時30分～4時30分

場所

公立鳥取環境大学
学生センター2階
多目的ホール



参加費無料

要申込

定員:200名

※報告の順番・タイトルは変更になることがあります



戸苅 丈仁

Report1 13:35～13:55

「メタン発酵を核とした鳥取県内で発生する
地域バイオマスからのエネルギー回収システム」



山本 敦史

Report2 13:55～14:15

「鳥取県産農産物における有用成分の探索」



重田 祥範

Report3 14:15～14:35

「気象情報のWeb公開と防災アラート速報の配信
－防災気象観測システムの構築－」



浅川 滋男

Report4 14:35～14:55

「『賽の河原』の風景
－摩尼山地蔵堂の考証と復元－」



門木 秀幸

Report5 15:05～15:25

「鳥取県における焼却施設の水銀物質フロー
推計モデルの構築と排出削減への応用」



倉持 裕彌

Report6 15:25～15:45

「鳥取県内のコミュニティビジネスに
関する実態調査」



磯野 誠

Report7 15:45～16:05

「中小企業による新製品・
サービス開発の成功要因」



太田 太郎

Report8 16:05～16:25

「千代川水系におけるアユ
*Plecoglossus altivelis*の減少要因の究明」

発表者のご紹介

<p>Report1 戸莉 丈仁 Togari,taketo</p>	<p>環境学部 環境学科 准教授 ----- 下水道工学、水処理工学 【専門】 バイオマス利活用(汚泥処理) 水環境保全</p>	<p>メタン発酵処理は下水汚泥中の有機分を分解、ガス化し、汚泥発生量を低減させる処理方式であり、発生するガスは、再生可能エネルギーとして発電や熱利用が可能です。本研究では、メタン発酵による浄化槽汚泥、集排汚泥、食品廃棄物、草本系廃棄物、下水汚泥、などのメタン生成ポテンシャルを評価するとともに、特に稲わらに着目し、鳥取県内の下水処理場をフィールドとして稲わらと下水汚泥の地域内資源循環システムの可能性調査を行いました。</p>
<p>Report2 山本 敦史 Yamamoto,atsushi</p>	<p>環境学部 環境学科 准教授 ----- 【専門】 分析化学、質量分析</p>	<p>県産農産物を高付加価値化し農林水産業を活性化することは「鳥取県元気づくり総合戦略」にも盛り込まれた課題です。機能性表示食品制度が四年前にスタートし、高付加価値食品にはいかに機能性の科学的根拠を示すかが求められています。高分解能質量分析という方法を用いた有効成分の評価法について報告します。</p>
<p>Report3 重田 祥範 Shigeta,yoshinori</p>	<p>環境学部 環境学科 准教授 ----- 【専門】 局地気象学、生気象学 自然地理学、地学教育</p>	<p>天候の急変により冠水や浸水、大雪などの自然災害に悩まされる自治体が多くなってきています。このような気象リスクを軽減するため、気象情報のWeb公開と防災アラート速報の配信を目的として、防災気象観測システムの構築をおこなっています。そして、高密度な観測体制を整えることで初動体制の手法について検討しましたので報告します。</p>
<p>Report4 浅川 滋男 Asakawa,shigeo</p>	<p>環境学部 環境学科 教授 ----- 【専門】 住環境保全論 文化財保護、比較文化史</p>	<p>摩尼山は平安中期に開山した天台宗の霊山で、18世紀まで境内は「奥の院」にありました。これまで「奥の院」の発掘や境内建造物の調査などに取り組み、2016年に日本最大の面積(約37万km)の国登録記念物になりました。2018年度は鷲ヶ峰「賽の河原」の復元研究を進めるとともに、摩尼川源流を遡行しつつ小石を集め、「賽の河原」に石積み供養塔をつくるイベントを開催しました。</p>
<p>Report5 門木 秀幸 Mongi,hideyuki</p>	<p>環境学部 環境学科 講師 ----- 【専門】 環境分析、廃棄物 リサイクル工学</p>	<p>我々の社会の中における有害物質の流れ(フロー)を捉えることは、廃棄物の適正処理及び環境負荷の削減を図る上で重要です。本研究では生活ごみに含まれる水銀に着目し、焼却処理工程における水銀のフローについて考えました。</p>
<p>Report6 倉持 裕彌 Kuramochi,hiromi</p>	<p>経営学部 経営学科 准教授 ----- 【専門】 地域社会学 コミュニティ・ビジネス論</p>	<p>コミュニティビジネスは地域社会の課題を解決する手段として期待されています。ですが、継続性が低いという課題があります。本研究では、地域社会の課題を解決する事業に取り組んでいる組織を対象に調査を行い、継続性の背景などを明らかにしました。それらをもとにこれからのコミュニティビジネスのあり方を検討します。</p>
<p>Report7 磯野 誠 Isono,makoto</p>	<p>経営学部 経営学科 教授 ----- 【専門】 マーケティング、新製品開発 ブランド、デザイン</p>	<p>中小企業は、その新製品・サービスの開発をいかにして成功させることができるのでしょうか。中小企業による新製品・サービス開発の成功要因に関して、県内の成長中小企業の経営実務家、および開発事業評価に携わる専門家を対象とした定性調査からの知見を紹介いたします。</p>
<p>Report8 太田 太郎 Ohta,taro</p>	<p>人間形成教育センター 准教授 ----- 【専門】 魚類生態学、水産資源生物学 漁業制度/漁業法令、地域連携</p>	<p>アユは日本の河川性魚類の代表種の一つであるが、近年その減少が問題となっています。本種は寿命が1年で、孵化後まもなく海に降り、ある程度成長した後再び河川を遡る生活史を有します。現在千代川水系におけるアユの減少要因を究明するため、海と川の両水域で調査を進めており、本発表ではその研究経過について報告します。</p>

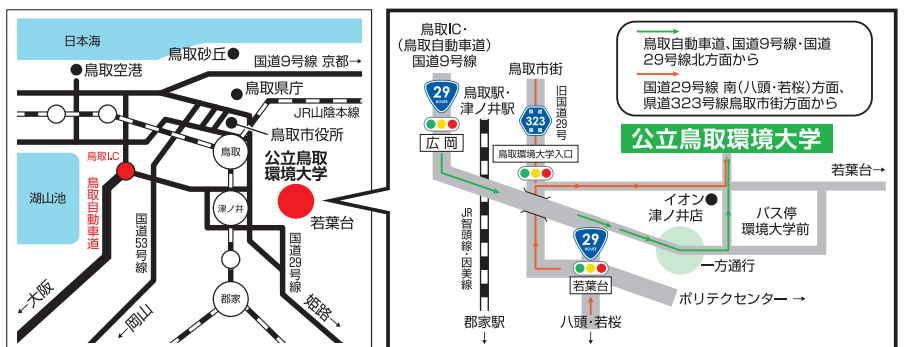
○申込方法

参加ご希望の方は、「氏名・所属先・連絡先」をお電話もしくは電子メールで、下記連絡先へお知らせください。

○申込先・お問合せ

公立鳥取環境大学
地域イノベーション研究センター
TEL:0857-32-9100
FAX:0857-32-9108
Mail:kikaku@kankyo-u.ac.jp
(担当:大野)

○交通アクセス



●鳥取駅からバスで約20分 ●鳥取空港から車で約30分 ●JR津ノ井駅から徒歩約20分 ※駐車場あり



公立鳥取環境大学
Tottori University of Environmental Studies

〒689-1111 鳥取市若葉台北一丁目1番1号

当日は掲示による会場案内があります